

1 学校教育目標

<教育理念>

地域の特性を生かし、国際化の進展に対応した学校づくり ～飛翔～

<教育方針>

6年間の計画的・継続的な教育活動を通して、生きる力を育み、誇りと自信をもって世界に飛躍する人材の育成を図る。

<6つの特色ある教育活動「飛翔プロジェクト」>

- 1 大学・地域連携＝コミュニティ・スクール導入による大学や地域との連携
- 2 人間教育＝生徒会活動・部活動等による豊かな人間性と主体性の育成
- 3 学力育成＝6年一貫の効果的な教育課程による学力育成と進路実現
- 4 国際教育＝国際交流と語学教育の充実によるグローバル人材の育成
- 5 サイエンス教育＝理数教育や講演会等の充実による理系人材の育成
- 6 総合「海峡学」＝キャリア教育と探究活動による主体的学習者の育成

2 現状分析(前年度の評価と課題を踏まえて)

(1) 確かな学力の保証

→ 一昨年度から学力面のデータ分析を行い、朝学の充実などに取り組んだ結果、特に前期課程において如実な学力向上がみられた。今後とも一層学力向上に取り組むたい。

○次期学習指導要領に基づいた教育課程の編成を完成する。

・次期学習指導要領に対応した新教育課程の研究に全教科で取り組み、骨子については編成を終えた。

さらに、新大学入試制度についても研究を深め、より効果的な教育課程の編成に努めたい。

○各学年で朝学の取組を充実させるとともに、授業以外での学習時間の目標を示すことで生徒の主体的な学習習慣の確立を図る。

・朝学の取組を充実した結果、国公立大学に合格する可能性を持つ成績の生徒数が前期課程の8割程度に達した。

・授業以外の学習時間については、生徒・保護者の約半数、教員の7割が不足していると感じている。今後の大きな課題である。

○世界に飛躍する人材の育成に向けて、英語教育の改善・充実を図る。

・本校主催の英語学習セミナーに加え、民間業者による同セミナーの新規実施など、授業以外での英語教育にも積極的に取り組んだ。

・平成29年度入学生から、4年生時での14日間カナダ語学研修への変更を計画している。

○寮のWeb環境の整備を行い、寮での自学自習を充実させる。

・インターネットを使った学習ができる環境を整えることができた。

寮での自学自習が効果的なものとなるよう、今後も引き続き指導をしていく必要がある。

(2) 生徒一人ひとりの希望進路の実現

→ 一人ひとりに対応した適切な指導により、就職希望者6名は公務員4名を含め完全希望実現、進学希望者102名は96人が希望を実現した。

○生徒が明確な将来像を描けるよう、大学や地元企業と連携した大学等ゼミ訪問や企業研究等の取組を一層推進していく。

・1回生で下関市立大学訪問、2回生で山口東京理科大学訪問・地元の最先端工場見学、3回生で山口大学本学・工学部訪問、4回生で志望大学オープンキャンパス参加、5回生で研究分野別大学ゼミ訪問を実施し、生徒の明確な進路意識の醸成に努めていく。

○各学年で模擬試験結果などの進路データを有効に活用した進路検討会を実施する。

・各学年の進路検討会で模擬試験結果などを分析し、適切な対応をした結果、模試成績につながった。

○昨年度整理した新たな大学入学者選抜制度への対応を着実に実践していく。

・小論文対策・面接対策に組織的に取り組み、大きな成果をあげた。

・作成された面接・集団討論の生徒用マニュアルが指導に生かされ、進学実績が大きく向上した。

(3) 豊かな心もち、グローバル社会を生き抜いていく力を身に付けた生徒の育成

→ 各分掌・学年で人間教育に取り組み、着実に成果をあげている。

○生徒会、学校行事、寮におけるリトル・ティーチャー制により、生徒のリーダーシップを育成する。

・各種行事において、リトル・ティーチャー制を取り入れ、生徒の企画・運営・指導力を発揮させ、生徒の自主活動を推進させることができ

・寮生活においてもリトル・ティーチャー制を取り入れることで、自立心が育ち、円滑な生活を送ることができた。

○人間関係づくりや国際交流の活動等を通して、コミュニケーション能力を高め、他者を尊重し協働して問題を解決していく力を育む。

・学校行事や学年行事で、生徒が主体的に活動する場を多く設定し、望ましい集団の育成に努めた。

○生徒が主体的に取り組むボランティア活動を一層推進する。

・ペットボトルキャップ・プルタブなどの収集ボランティア、歳末たすけあい募金活動・トイレ掃除ボランティアなどに多くの生徒が参加した。今後も多くの生徒が参加できるように、一層の充実を図っていく。

○留学に関する校内の規定を整理し、短期留学を含めた留学を促進する。

・留学に関する校内の規定を整理し、留学しやすい環境を整えた。

・海外留学について啓発活動に取り組み、留学を促進した結果、「トビタテ！留学JAPAN」への参加など、留学する生徒が増加した。

(4) 組織としての課題解決力の確立

→ 全教員がリスクマネジメント意識を持てるように今後とも計画的に研修に取り組んでいく。

○教科研修会、互見授業と教科領域別研究授業等の計画的な実施により、教員全体の教科指導力を一層高める。

・各教科で定期的・計画的に研修会を開催し、教科指導力向上に励んだ。

○生徒指導、道徳・人権教育、教育相談等の計画的な研修により、教職員の指導力の一層の向上を図る。

・計画的に研修を実施した。引き続き教員の指導力の一層の向上を図っていく。

○校務分掌業務を精選し、業務改善を図ることで、組織全体の活性化を図る。

・今後の教員定数減を見据えて、大幅な校務分掌の改編を行った。

・業務の精選については、引き続き研究していき、一層の業務改善を図る必要がある。

(5) 生徒募集活動の強化による志願者数の増加

→ 志願倍率が1.7倍に増加するとともに、辞退者が大きく減少した。

○本校の教育活動を整理した「飛翔プロジェクト」を推進し、地域や保護者への広報活動の充実を図る。

・「飛翔プロジェクト」により、児童・保護者に本校の教育活動の理解が深まり、志願倍率の向上につながった。

○小学生を対象とした、おいのやまサイエンスセミナー、英会話教室、部活動体験などの取組の充実を図る。

・本校での教育活動体験により本校への関心・興味が一層強まり、志願倍率の向上につながった。

・学校HPを刷新し、頻繁に更新をすることで、昨年度1万5千回だった閲覧回数が昨年度は3月で4万回近くとなった。

3 本年度重点目標

これまで構築した中高一貫教育システムを円滑に運営することで、地域や大学との連携を一層深めながら「未来社会を生き抜く総合的な人間力」と「高い学力」を培い、世界に飛躍する人材の育成に向けて教育活動の充実に努める。

(1) 確かな学力の保証

- 次期学習指導要領に基づき新大学入試制度に対応した教育課程の編成を完成させる。
- 授業以外での学習時間の目標を示すことで生徒の主体的な学習習慣の確立を図る。
- 世界に飛躍する人材の育成に向けて、英語教育の充実に努める。

(2) 生徒一人ひとりの希望進路の実現

- 生徒が明確な将来像を描けるよう、大学や地元企業と連携した大学等ゼミ訪問や企業研究等の取組を一層推進していく。
- 各学年で模擬試験結果などの進路データを有効に活用した進路検討会を実施する。
- 本校で構築した新たな大学入学者選抜制度への対応を着実に実践していく。

(3) 豊かな心を持ち、グローバル社会を生き抜いていく力を身に付けた生徒の育成

- 生徒会、学校行事、寮におけるリトル・ティーチャー制により、生徒のリーダーシップを育成する。
- 人間関係づくりや国際交流の活動等を通して、コミュニケーション能力を高め、他者を尊重し協働して問題を解決していく力を育む。
- 生徒が主体的に取り組むボランティア活動を一層推進する。
- 留学制度について啓発活動の充実に努め、生徒の参加を促進する。

(4) 組織としての課題解決力の確立

- 教科研修会、互見授業と教科領域別研究授業等の計画的な実施により、教員全体の教科指導力を一層高める。
- 生徒指導、道徳・人権教育、教育相談等の計画的な研修により、いじめや問題行動等への対応を含む教員の指導力の一層の向上を図る。

(5) 生徒募集活動の強化による志願者数の増加

- 本校の教育活動を整理した「飛翔プロジェクト」を推進し、地域や保護者への広報活動の充実に努める。
- 小学生を対象とした、おいのやまサイエンスセミナー、英会話教室、部活動フェスタなどの取組の充実に努める。

4 自己評価					5 学校関係者評価		
分掌	重点目標	具体的方策（教育活動）	評価基準	達成度	重点目標の達成状況の診断・分析	学校関係者からの意見・要望等	評価
教務	学習指導要領改訂に伴う教育課程の編成	新教育課程検討チームやプロジェクト委員会にて、生徒一人ひとりの希望進路の実現に向けた科目選択ができるよう、新教育課程の検討を行う。	4 新教育課程検討チーム等にて、授業単位数の調整や選択科目の内容検討・精選を十分に図った。	3	○ 教育課程検討委員会、プロジェクト委員会、職員会議で協議、検討を重ね次期学習指導要領に対応し、新しい学力観に立った学習指導が可能となる教育課程を編成した。カリキュラム・マネジメントの視点で改善・充実が必要である。	新しい学力観を意識しながら、学力向上に向けた学習指導の充実に努めていきたい。同時に、中高一貫校の利点となる教育内容の速修化を生かし、進路実現を可能にする効果的な教育課程の研究を行っていただきたい。	B
			3 新教育課程検討チーム等にて、授業単位数の調整や選択科目の内容検討・精選をほぼ図った。				
			2 新教育課程検討チーム等で検討したが、授業単位数の調整や選択科目の内容検討・精選が図れなかった。				
			1 新教育課程検討チーム等での検討を1回も行わなかった。				
生徒・保護者に向けた科目選択指導・説明の充実	各科目の特徴や大学の入試科目を理解してもらい、将来を見据えた科目選択につなげていく。	4 生徒・保護者に向けた科目選択に関する指導や説明会を、2回生以上の学年で8回以上行った。	3	○ 生徒・保護者に向けた科目選択に関する指導や説明会を2回生以上の学年で7回行った。本年度から特にクラス編成において大きな改善を行った。次年度は結果の検討を行い、生徒の能力・適性に合った科目選択がなされるよう、より丁寧な指導、説明を行う。	適切な科目選択を行うために生徒・保護者への十分な情報提供は、不可欠である。引き続き、説明会等の充実をお願いしたい。	A	
		3 生徒・保護者に向けた科目選択に関する指導や説明会を、2回生以上の学年で6回以上行った。					
		2 生徒・保護者に向けた科目選択に関する指導や説明会を、2回生以上の学年で4回以上行った。					
		1 科目選択に関する指導や説明会を、ほとんど行えなかった。					
英語教育の充実	外国語科と協力し、英語検定合格者の向上に向けた課外授業や英会話授業（ALTの利用）を実施する。	4 英語検定対策課外や英会話授業を実施し、1次試験合格者を前年度と比べ2割向上させた。	3	○ 外国語科の協力を得て、英検における1次合格者を1割以上向上させることができた。次年度は特に前期課程における読解力の向上を図り、合格率を上げる予定である。	教務課と外国語科の連携のもと、校内の各種英語検定の達成目標を明示し、それに向けた生徒の主体的な学習を支援していただきたい。	B	
		3 英語検定対策課外や英会話授業を実施し、1次試験合格者を前年度と比べ1割向上させた。					
		2 英語検定対策課外や英会話授業を実施したが、1次試験合格率は前年度と比べほとんど変化がなかった。					
		1 英語検定対策課外や英会話授業を実施したが、1次試験合格率は前年度と比べ下がった。					
朝学やステップアップノートなど学力向上の更なる取組の推進	朝学やステップアップノートへの取組をはじめとして、日々の学習活動を進める中で学力向上を図る。	4 学力推移調査や進研模試での偏差値の伸びが6学年全体で平均して年間1.5ポイント以上向上した。	4	○ 民間テストの偏差値の伸びが6学年全体で1.6ポイント向上した。学年間で数値のばらつきが大きいため、全学年で成績の向上が見られるように、学習指導を工夫する体制を整える。	今後とも定期的に各学年の成績を観測し、教科や学年で十分な検討をいただき、指導の改善・充実に努めていきたい。	A	
		3 学力推移調査や進研模試での偏差値の伸びが6学年全体で平均して年間1ポイント以上向上した。					
		2 学力推移調査や進研模試での偏差値の伸びが6学年全体で平均してほとんど変化がなかった。					
		1 学力推移調査や進研模試での偏差値の伸びが6学年全体で平均してマイナスとなった。					

分掌	重点目標	具体的方策（教育活動）	評価基準	達成度	重点目標の達成状況の診断・分析	学校関係者からの意見・要望等	評価
生徒指導	生徒会活動・学校行事におけるリトル・ティーチャー制の推進	生徒会活動、学校行事等で、リトル・ティーチャー制を取り入れ、上級生から下級生への仕事の指導や計画的な引き継ぎにより、学校行事や生徒会活動などを活性化させる。	4 生徒による学校評価アンケートの学校行事・生徒会活動で、上級生は仕事を親切に教えてくれたあるいは教えたという結果が80%以上である。	4	○ 83%の生徒が、学校行事・生徒会活動で、上級生は仕事を親切に教えてくれたあるいは教えたという認識がある。かつ、84%の生徒が、幅広い年齢層の生徒がいることは自分にとってプラスだと思っている。	リトル・ティーチャー制は中等教育学校での教育活動の特色の一つである。生徒同士が学年を超えてコミュニケーションを図り、温かい人間関係を築く力を育てていただきたい。	A
			3 生徒による学校評価アンケートの学校行事・生徒会活動で、上級生は仕事を親切に教えてくれたあるいは教えたという結果が70%以上である。				
			2 生徒による学校評価アンケートの学校行事・生徒会活動で、上級生は仕事を親切に教えてくれたあるいは教えたという結果が60%以上である。				
			1 生徒による学校評価アンケートの学校行事・生徒会活動で、上級生は仕事を親切に教えてくれたあるいは教えたという結果が60%未満である。				
	ボランティア活動の活性化	校内や校外でのボランティア活動など、地域に目を向けた活動を計画・実施する。	4 生徒による学校評価アンケートのボランティア活動が盛んだという結果が80%以上である。	3	○ 76%の生徒が、本校はボランティア活動が盛んだと感じており、ひこつとらんどビーチ清掃ボランティア、歳末助け合い運動、校内トイレ掃除ボランティアなど、積極的に活動している。	生徒のボランティア活動への参加意欲は高いと思われる。生徒が活躍する機会をより多く提供していただきたい。	B
			3 生徒による学校評価アンケートのボランティア活動が盛んだという結果が70%以上である。				
			2 生徒による学校評価アンケートのボランティア活動が盛んだという結果が60%以上である。				
			1 生徒による学校評価アンケートのボランティア活動が盛んだという結果が60%未満である。				
	挨拶を含む生徒のマナー・規範意識の向上	交通安全指導、あいさつ運動を通して、ルールからマナー・エチケットへと意識改革を図るとともに、情報モラルや薬物乱用防止の講演会を計画・実施する。	4 生徒による学校評価アンケートの校則が守られているという結果が80%以上である。	4	○ 92%の生徒が、校則を守っているとの認識があり、生徒会が集会で身だしなみについての声掛けやマナーアップ週間にて校則についての意識を高めている。また、情報モラル教室や薬物乱用防止教室の講演会を真剣な態度で臨み、理解を深めた。	生徒は規範意識を高くもち、落ちついた学校生活を送っている。お互い気持ちのよい挨拶ができる学校づくりを進めていただきたい。	B
			3 生徒による学校評価アンケートの校則が守られているという結果が70%以上である。				
			2 生徒による学校評価アンケートの校則が守られているという結果が60%以上である。				
			1 生徒による学校評価アンケートの校則が守られているという結果が60%未満である。				
いじめ・問題行動等に迅速に対応する組織的な生徒指導体制の確立	積極的な生徒指導を推進し、かついじめ・問題行動等に迅速に対応するために、学年間、教員間の情報共有と、組織的な対応を実施する。	4 生徒の心を育てる予防的教育的な働きかけを行い、生徒の変化への気づきや生活アンケート等で分かる課題に対して、迅速かつ組織的に対応することができた。	3	○ 生徒の心を育てる予防的教育的な働きかけを行い、生徒の変化への気づきや生活アンケート等で分かる課題に対して、組織的に対応することができた。	問題行動等に対し、生徒の心情を理解しながら組織として迅速に対応していただいている。日常的に生徒観察を行い、情報を共有して組織的な対応を引き続き保っていただきたい。	A	
		3 生徒の心を育てる予防的教育的な働きかけを行い、生徒の変化への気づきや生活アンケート等で分かる課題に対して、組織的に対応することができた。					
		2 生徒の心を育てる予防的教育的な働きかけを行い、生徒の変化への気づきや生活アンケート等で分かる課題に対して、対応することができた。					
		1 生徒の心を育てる予防的教育的な働きかけを行い、生徒の変化への気づきや生活アンケート等で分かる課題に対して、対応することができなかった。					
進路指導課	キャリア指導	総合的な学習「海峡学」による明確な進路意識を醸成するキャリア教育の推進	4 80%以上の生徒がキャリア意識（進路意識）の向上を肯定的に感じた。	4	○ 「3-6」トークを実施することはできなかったが、大学の研究者や本校を卒業した大学生との対話の場を設けることができた。 ○ 1回生から6回生まで合わせて84%の生徒がキャリア意識の向上を肯定的に感じており、非常に成果が上がった。	前期課程段階からの大学訪問、後期課程の大学等ゼミ訪問をはじめ、各学年のキャリア教育の取組が生徒の進路意識の高揚に結び付いている。	A
			3 50%以上の生徒がキャリア意識（進路意識）の向上を肯定的に感じた。				
			2 40%以上の生徒がキャリア意識（進路意識）の向上を肯定的に感じた。				
			1 生徒のキャリア意識の向上は十分に認められなかった。				
	進学実績の向上	模試の成績状況の継続的提供と各回生での進路検討会を実施する。	4 模試成績資料を複数回提供し、各回生で進路検討会を複数回実施できた。	3	○ 模試成績状況等の資料提供を複数回行い、どの学年も概ね成績が向上した。 ○ 進路検討会の結果を受けて、面談等を実施し、最難関大学に合格者を輩出した。	低学年段階からこまめに各学年へ成績資料を提供し、希望者模試についてもより積極的な受験指導を行っていただきたい。最難関大学への合格は学校全体の励みになっているのではないかと。	B
			3 模試成績資料を複数回提供し、各回生で進路検討会を年1回実施できた。				
			2 模試成績資料を複数回提供することができた。				
			1 模試成績資料を複数回提供するに至らず、各回生での進路検討会も実施できなかった。				
	進学指導	新大学入試への対策の充実	4 入試情報を複数回提供し、ポートフォリオのシステムの導入と周知徹底を図ることができた。	3	○ 各学年に対する進路講話や教員への研修会等を通じて、生徒へのポートフォリオの周知を図ったが、積極的に活用する生徒と、そうでない生徒との間に差が生じていた。 ○ HPなどに様式をアップした。今後は、電子データ化も含め検討していきたい。	新大学入試システムの動向を踏まえ、ポートフォリオのシステムの改善・充実を図り、生徒が積極的に活用する指導をお願いしたい。	B
			3 入試情報を複数回提供したが、ポートフォリオのシステムの導入と周知徹底を図ることはできなかった。				
			2 入試情報を1回提供したが、ポートフォリオのシステムの導入と周知徹底を図ることはできなかった。				
			1 入試情報を一度も提供できず、ポートフォリオのシステムの導入と周知徹底を図ることもできなかった。				
生徒の個性や創造性を伸ばすきめ細やかな指導の充実	小論文指導、面接指導の充実など積極的に支援を行う。	4 小論文指導、集団討論・面接指導の充実も図ることができ、国公立大学合格率4割を超えた。	3	○ 計画的に小論文指導や面接指導、集団討論指導を行いある程度の成果は上がったが、一部大学とのミスマッチがあり、改善策を練る必要がある。 ○ A〇入試で3名、推薦入試で16名の生徒が、国公立大学に合格した。	A〇入試や推薦入試で生徒一人ひとりに対し、きめ細かな指導をいただいている。組織的な指導を今後ともお願いしたい。	A	
		3 小論文指導、集団討論・面接指導の充実も図ることができ、国公立大学合格率3割を超えた。					
		2 小論文指導ないしは、集団討論・面接指導の充実が図れた。					
		1 小論文指導の充実も、集団討論・面接指導の充実も図れなかった。					
保健体育課	体力の向上と心身に逞しい人間力の育成	体育的行事や日々の生活の中で、主体的・積極的に活動し、良好な人間関係を築くことにより、体力及び逞しい人間力の向上を図る。	4 体力及び人間力の向上に積極的に取り組み、80%以上の生徒が成果をあげたと感じる事ができた。	4	○ 体育大会後の生徒アンケートでは、90%以上の生徒が、体力、人間力、または両方が向上したと答えていた。困難な状況の中でも、委員・係・上級生をリーダーとし、良好な人間関係の中で十分な成果をあげることができた。 ○他の行事や授業・部活動等の日常の活動の中でも、PDCAサイクルを活用し、十分な成果をあげていきたい。	体育大会やマラソン大会等で、生徒達の強く思いやりのある心を育てていただいている。引き続き生徒の主体的な活動を推進してもらいたい。	A
			3 体力及び人間力の向上に積極的に取り組み、半数以上の生徒が成果をあげたと感じる事ができた。				
			2 体力及び人間力の向上に積極的に取り組み、成果をあげたと感じる事ができた生徒が半数以下であった。				
			1 ほとんどの生徒が、体力及び人間力の向上に積極的に取り組むことができず、成果があがらなかった。				
	見つけ掃除の推進による清掃・環境美化活動の徹底	見つけ掃除の確実な取組を通じて日常の美化意識や主体的な行動意欲を高めるとともに、校内の学習環境の改善を図る。	4 見つけ掃除の徹底が図れ、80%以上の生徒に校内の環境美化に関する意識・行動の変容が見られた。	3	○ 見つけ掃除について、各学年で意識の浸透が図られ、アンケートの掃除項目では、生徒の肯定的意見が昨年度より増え、80%を超えた。 ○ 掃除への意識の向上は生徒全体としてみられたが、教員側の視点からすると、日常生活での環境美化の意識向上についてはまだまだ向上できる余地があり、今後の課題といえる。	環境美化は生徒の落ち着いた学校生活や学力向上を促す。よって、意識向上への指導の充実を今後ともお願いしたい。	B
			3 見つけ掃除の徹底が図れ、半数以上の生徒に校内の環境美化に関する意識・行動の変容が見られた。				
			2 見つけ掃除の徹底が図れたが、校内の環境美化に関する意識・行動の変容が見られた生徒は半数以下であった。				
			1 見つけ掃除の徹底が十分図れず、生徒の校内の環境美化に関する意識・行動の変容が十分に図れなかった。				

分掌	重点目標	具体的方策（教育活動）	評価基準	達成度	重点目標の達成状況の診断・分析	学校関係者からの意見・要望等	評価
保健体育課	感染症拡大防止に向けた健康管理能力の育成	インフルエンザ等の感染症の流行を最小限に収めるための予防行動や集団生活におけるマナーの定着を図る。	4 学校評価アンケートの保健衛生に関する項目で肯定的な評価が80%以上であった。	3	○ 感染症予防について、生徒自身の意識や知識を確認した上で、地域の専門家からの講話を聞くことで、具体的な予防行動を意識し、定着しつつある。昨年と比較し、罹患者数が減少した状態で流行が終息できた。 ○ 保健だより、掲示板、ホームページなどを連動させて、今後も一層の情報啓発の充実を図り、予防行動を確実に定着させたい。	感染症予防は左記の様々な働きかけもあり達成できていると思われる。次年度も啓発活動の充実を図っていただきたい。	A
			3 学校評価アンケートの保健衛生に関する項目で肯定的な評価が60%以上であった。				
			2 学校評価アンケートの保健衛生に関する項目で肯定的な評価が40%以上であった。				
			1 学校評価アンケートの保健衛生に関する項目で肯定的な評価が40%未満であった。				
寮務課	リトル・ティーチャー制による寮生活の充実	寮におけるリトル・ティーチャー制により、挨拶や時間を守ることなど集団生活に必要な規律を身につけさせ、円滑な寮生活を送ることができるようにする。	4 寮におけるリトル・ティーチャー制を進展させ、寮生が十分に充実した集団生活を送ることができた。	3	○ 上級生が新入生に、寮での生活について教えたり、一緒に学習しながら学習に臨む態度等を示したりした。 ○ 寮長を中心に委員会活動を通して、環境整備活動やレクリエーション活動を行い、充実した寮生活を送ることができた。	上級生と下級生の良好な人間関係が見られる。規律を保ちながら、円滑な寮生活を送る環境づくりをお願いしたい。	A
			3 寮におけるリトル・ティーチャー制を進展させ、寮生がおおむね充実した集団生活を送ることができた。				
			2 寮におけるリトル・ティーチャー制を進展させたが、寮生が充実した集団生活を送るまでには至らなかった。				
			1 寮におけるリトル・ティーチャー制を進展させることができず、寮生が充実した集団生活を送ることもできなかった。				
中等教育学校推進課	学習環境の一層の充実と生徒の学力向上	学習時間の有効な活用と個々の生徒への相談活動の充実を通して学力を向上させる。	4 学習時間に集中して学習できる生徒が90%以上であり、学習時間以外の時間を利用して学習に取り組む生徒が増えた。	2	○ 1回生のロビーでの学習、多目的室での学習は教師や上級生の指導がないと私語が出るなど集中が続かないことがあった。 ○ 自習室や自室で学習する上級生は静かに学習できている。	上級生が模範を示しながら、限られた時間の中で個々が集中して学習に臨む指導をお願いしたい。	B
			3 学習時間に集中して学習できる生徒が90%以上であった。				
			2 学習時間に集中して学習できる生徒が80%以上であった。				
			1 学習時間に集中して学習できる生徒が80%に満たなかった。				
中等教育学校推進課	校内研修・研究授業の充実	互見授業と教科領域別研究授業を実施することを通して、主体的・協働的で深い学びを実現できる研究環境づくりを推進する。	4 90%以上の教員が互見授業を実施する。	3	○ 11月12月期に、互見授業の活性化のためのテコ入れができなかった。 ○ 互見授業の本義である、授業技術の向上を話題として自由闊達に語り合う環境づくりには至らなかった。 ○ 教員の多忙とアチーブメントによる評価と研究体制づくりの在り方とを、見直す必要がある。	生徒の学力向上に資する先生方の授業力向上のために、今後とも全教員が積極的に互見授業を実践してもらいたい。	B
			3 70%以上の教員が互見授業を実施する。				
			2 50%以上の教員が互見授業を実施する。				
			1 50%未満の教員が互見授業を実施する。				
中等教育学校推進課	国際交流活動や留学・海外研修によるグローバル人材の育成	総合的な学習の時間（東アジア文化入門）、海外派遣事業、諸外国からの学校訪問受入等を積極的に行う中で、国際交流のリーダーとなる生徒を育てる。	4 学校に関するアンケート結果と国際交流に関する調査結果の90%以上が肯定的であった。	4	○ 多くの学校と交流を図ることができた。 ○ イングリッシュキャンプなど語学力向上に寄与するイベントを実施することができた。 ○ 海外派遣や留学の体験報告会も複数おこなった。	他校にない充実した国際交流活動が行われている。生徒の国際感覚も着実に育まれているのではないかと。	A
			3 学校に関するアンケート結果と国際交流に関する調査結果の70%以上が肯定的であった。				
			2 学校に関するアンケート結果と国際交流に関する調査結果の50%以上が肯定的であった。				
			1 学校に関するアンケート結果と国際交流に関する調査結果の50%未満が肯定的であった。				
中等教育学校推進課	NIEの組織的な推進	NIE活動を学習活動や生徒会活動に位置づけ、学校全体で新聞活用を行える環境をつくる。	4 90%以上の教員が新聞を活用した指導を実施する。	3	○ 一年目としては活発だと言える。 ○ 生徒が自主的に活用した例は多かった。 ○ 新聞を利用した授業の例の収集と紹介が不十分だった。	新聞を通じてより高度な単語にふれ、情報を入力し、自身の考えを形成していくプロセスを大切にしたい。引き続き組織的な対応をお願いしたい。	B
			3 70%以上の教員が新聞を活用した指導を実施する。				
			2 50%以上の教員が新聞を活用した指導を実施する。				
			1 50%未満の教員が新聞を活用した指導を実施する。				
大学・地域連携課	大学等ゼミ訪問の円滑な運営システムの構築	校内外担当者との連携し、円滑な運営について研究する。	4 円滑な運営システムの構築がなされた。	3	○ 訪問時期やテーマの選定方法について、本校の目標とするシステムがおおむね構築された。	生徒の主体的な学びの支援をしながら、学習意欲や進路意識の向上をさらに図ってほしい。	B
			3 円滑な運営システムの構築がおおむねなされた。				
			2 円滑な運営システムの構築がほとんどなされなかった。				
			1 円滑な運営システムの構築がなされなかった。				

分掌	重点目標	具体的方策（教育活動）	評価基準	達成度	重点目標の達成状況の診断・分析	学校関係者からの意見・要望等	評価		
1 年生	学習指導	主体的な学習習慣を確立の基礎学力の定着	授業前に2分前着席・黙想を確実にし、朝読書（朝学）も充実し、学校での落ち着いた学習環境の充実を図る。	4 3 2 1	2分前着席・黙想・朝読書（朝学）のうち、すべてが充実し、学習環境がしっかりした。 2分前着席・黙想・朝読書（朝学）のうち、2つが充実した。 2分前着席・黙想・朝読書（朝学）のうち、1つが充実した。 2分前着席・黙想・朝読書（朝学）において、どれも十分でなかった。	4	○ 2分前着席・黙想・朝読書（朝学）は、生徒が9割以上ができていたという学年末の自己評価であり、学習環境は整い、学校生活は、総じて落ち着いた。	生徒は熱心に学習に取り組んでいると感じられる。	A
	生活指導	一人ひとりが活躍できる場の設定による豊かな人間性と望ましい集団の育成	学年集会、行事、委員会活動等を生徒に企画・運営させることにより、自己有用感を育て、望ましい集団の育成を図る。	4 3 2 1	生徒主体の委員会・集会活動を学期に3回以上実施した。 生徒主体の委員会・集会活動を学期に2回程度実施した。 生徒主体による学年活動・委員会活動を学期に1回程度実施した。 生徒主体による学年活動・委員会活動ができなかった。	4	○ 次の活動を通して一人ひとりが活躍し、他者との望ましい人間関係の育成が図れた。 ・ 月1回の定期の委員会活動・学期に2回の学年集会の企画・運営 ・ フレンドシップキャンプにおける各活動の企画運営 ・ 海峡学「下関探訪」のフィールドワーク・プレゼンテーションの企画運営	1年生の人間関係づくりには、今後も引き続き特に力を入れてもらいたい。	A
2 年生	学習指導	基礎・基本の定着と発展的な学力を身につけるための学習習慣の確立	自主学習ノートと朝学の取組を通して、家庭学習平日2時間、休日3時間の予習復習のサイクルを確立する。	4 3 2 1	生徒の80%以上が平日2時間、休日3時間の学習習慣の定着に取り組み、その成果を実感している。 生徒の50%以上が平日2時間、休日3時間の学習習慣の定着に取り組み、その成果を実感している。 生徒の30%が平日2時間、休日3時間の学習習慣の定着に取り組み、その成果を実感している。 生徒のほとんどが平日2時間、休日3時間の学習習慣の定着に取り組みだが、その成果を実感できていない。	3	○ 5教科復習教材を家庭ですることにより、少しずつ学習習慣がついてきた。 問題集を家庭学習→朝学（小テスト）→朝課題提出→終礼で返却・見直し+授業でフィードバックや補習授業	朝学を実施するなど自己学習力の伸長が図られている。	B
	生活指導	一人ひとりが活躍できる場の設定による豊かな人間性と望ましい集団の育成	学年集会、行事、委員会活動等を生徒に企画・運営させることにより、自己有用感を育て、望ましい集団の育成を図る。	4 3 2 1	生徒の80%以上が校内行事・活動・プレゼンテーションなどを通して自己有用感を感じている。 生徒の50%以上が校内行事・活動・プレゼンテーションなどを通して自己有用感を感じている。 生徒の30%以上が校内行事・活動・プレゼンテーションなどを通して自己有用感を感じている。 生徒のほとんどが校内行事・活動・プレゼンテーションなどで自己有用感を感じることができなかった。	4	○ 学年集会一各委員による企画・運営や有志発表 ○ 海峡学一職場体験学習後にプレゼンテーション、調べた大学についてポスターセッション これらの諸活動を通じて、自己有用感と他者を認める気持ちが育ってきた。	生徒は学校行事等に意欲的に取り組んでいると感じられる。	A
3 年生	学習指導	主体的な学習への取組による学力の向上	朝学や課題に取り組ませることにより学習習慣を確立する。発展的な補充学習を実施する。	4 3 2 1	模擬試験等の結果により、学力が向上した生徒が80%以上であった。 模擬試験等の結果により、学力が向上した生徒が60%以上であった。 模擬試験等の結果により、学力が向上した生徒が40%以上であった。 模擬試験等の結果により、学力が向上した生徒が40%未満であった。	4	○ 接続テストに向けて、真摯に努力をしてよい成果を残した。 ○ 高校の学習内容にも取組方法を工夫・改善して取り組んだ。	朝学などの取組が生徒の学力向上に結び付いている。	A
	生活指導	一人ひとりが活躍できる場の設定による豊かな人間性と望ましい集団の育成	学年集会、行事、委員会活動等を生徒に企画・運営させることにより、自己有用感を育て、望ましい集団の育成を図る。	4 3 2 1	生徒の90%以上が、活動に対して、充実感を感じている。 生徒の80%以上が、活動に対して、充実感を感じている。 生徒の70%以上が、活動に対して、充実感を感じている。 生徒の60%以上が、活動に対して、充実感を感じている。	4	○ 自分たちの力で企画・運営することができ、学年全体が協力して活動することができた。 ○ 委員会活動や実行委員には積極的に立候補し、活動しようという姿勢が見られた。	生徒は主体的に活動に取り組んでいると感じられる。	A
4 年生	学習指導	学習内容の定着	定期考査や模擬試験受験後の指導を計画的・継続的に行う。	4 3 2 1	ステップアップノート（復習ノート）の提出率が90%以上であった。 ステップアップノート（復習ノート）の提出率が80%以上であった。 ステップアップノート（復習ノート）の提出率が70%以上であった。 ステップアップノート（復習ノート）の提出率が70%未満であった。	3	○ 定期考査や模擬試験の実施後には、重要なポイントをまとめたプリントを配付し、復習に役立てるよう指導した。 ○ 提出率の向上はもちろん、ノートの内容を充実させていくための方策も必要である。	高い目標を設定して、進学意識の高揚に一層努めてもらいたい。	B
	生活指導	基本的な生活習慣の確立	生活リズムの安定を図り、安易な欠席・遅刻をしないよう指導する。	4 3 2 1	学年皆勤者数が40名以上であった。 学年皆勤者数が30名以上であった。 学年皆勤者数が20名以上であった。 学年皆勤者数が20名未満であった。	3	○ 学年皆勤者数は30名であった。 ○ 不注意による遅刻を繰り返す生徒が固定化しており、生活習慣改善のための継続的な取組が必要である。	生徒は主体的に活動に取り組んでいると感じられる。	B
5 年生	学習指導	自己進路の明確化	個人面談や学年行事の充実	4 3 2 1	チューターによる個人面談を年5回以上行う。 チューターによる個人面談を年3回以上行う。 チューターによる個人面談を年1回以上行う。 チューターによる個人面談は年1回未満である。	3	○ 大学等ゼミ訪問などを通じて進路意識を高めた生徒に対して、面談により適切なアドバイスを提供した。 ○ 個々の生徒に対応した進路指導のための情報収集に心掛ける。	大学等ゼミ訪問をはじめ、海峡学における工夫した取組が生徒の進路意識の高揚に結び付いている。	B
	生活指導	中堅学年として、自ら行動する態度の育成	学校行事等で時間を厳守させる。	4 3 2 1	学校行事等の活動時間が守られていた 学校行事等の活動時間がほとんど守られていた 学校行事等の活動時間を守れないことが多くみられた 学校行事等の活動時間を守る態度が身につかなかった	3	○ 中堅学年としての意識が高まり、学校生活での時間意識が高まった。 ○ 学校行事等への参加も積極的に他学年を牽引していくような態度が見られた。	学校生活全般の指導を通して、今後も引き続き、規範意識の高揚に努めてもらいたい。	B
6 年生	学習指導	希望進路の実現	授業・課外・朝学などに主体的に取り組む。	4 3 2 1	7月三者懇談時の志望進路種別（国公立大学・私立大学・専門学校・就職）の進路希望決定率80%以上 7月三者懇談時の志望進路種別（国公立大学・私立大学・専門学校・就職）の進路希望決定率70%以上 7月三者懇談時の志望進路種別（国公立大学・私立大学・専門学校・就職）の進路希望決定率60%以上 7月三者懇談時の志望進路種別（国公立大学・私立大学・専門学校・就職）の進路希望決定率50%以上	3	○ 個人面談や、小論文、面接、集団討論対策等、できる限りの学力向上の取組を行い、年間を通じて進路意識と学力の向上に努めた。 ○ 志望進路種別への決定率は67%であった。	組織的・計画的な取組が充実しており、生徒の希望進路の決定率の向上につながっている。	B
	生活指導	最上級生としての自覚の向上	部活動・学校行事と学習活動とのけじめをつける。	4 3 2 1	部活動・学校行事と学習活動とのけじめをつけた言動がとれた。 部活動・学校行事と学習活動とのけじめをつけた言動がほぼとれた。 部活動・学校行事と学習活動とのけじめをつけた言動があまり取れなかった。 部活動・学校行事と学習活動とのけじめをつけた言動がとれなかった。	3	○ 各部活動引退後、気持ちを切り替えて受験に取り組む姿勢を持つことができた。 ○ 早期に進路が決定した生徒の中で、目的意識を失い、学校生活への取り組みが不十分になる生徒もいた。	組織的・計画的な取組が充実しており、生徒の希望進路実現に向けた努力を導くことができていくように感じられる。	B

5 学校評価総括(取組の成果と課題)

(1) 確かな学力の保証

→ 各学年・教科で学力面のデータ分析を行い、全教員で共通理解を図り、授業改善などに取り組んだ結果、今年度も如実な学力向上がみられた。今後とも一層学力向上に取り組むたい。

- 次期学習指導要領に基づき新大学入試制度に対応した教育課程の編成を完成させる。
 - ・次期学習指導要領に対応した新教育課程の研究に全教科で取り組み、編成を終えた。
 - さらに、新大学入試制度についても研究を深め、より効果的な教育課程の編成に努めたい。
- 授業以外での学習時間の目標を示すことで生徒の主体的な学習習慣の確立を図る。
 - ・授業以外の学習時間については、生徒・保護者の約半数、教員の7割が不足していると感じている。今後の大きな課題である。
- 世界に飛躍する人材の育成に向けて、英語教育の改善・充実を図る。
 - ・本校主催の英語学習セミナーに加え、民間業者による同セミナーの新規実施など、授業以外での英語教育にも積極的に取り組んだ。
 - ・平成29年度入学生から、4年生時での14日間カナダ語学研修に変更し、より効果的な英語教育を計画している。

(2) 生徒一人ひとりの希望進路の実現

→ 一人ひとりに対応した適切な指導により、就職希望者 名は公務員 名を含め希望実現、進学希望者 名は 人が希望を実現した。(3月22日現在)

- 生徒が明確な将来像を描けるよう、大学や地元企業と連携した大学等ゼミ訪問や企業研究等の取組を一層推進していく。
 - ・1回生で下関市立大学訪問、2回生で山口東京理科大学訪問・地元の最先端工場見学、3回生で山口大学本学、4回生で志望大学オープンキャンパス参加、5回生で研究分野別大学ゼミ訪問を実施し、生徒の明確な進路意識を醸成することができた。
- 各学年で模擬試験結果などの進路データを有効に活用した進路検討会を実施する。
 - ・各学年の進路検討会で模擬試験結果などを分析し、適切な対応をした結果、模試成績につながった。
- 本校で構築した新たな大学入学者選抜制度への対応を着実に実践していく。
 - ・小論文対策・面接対策に組織的に取り組み、大きな成果をあげた。
 - ・作成された面接・集団討論の生徒用マニュアルが指導に生かされ、進学実績が大きく向上した。

(3) 豊かな心を持ち、グローバル社会を生き抜いていく力を身に付けた生徒の育成

→ 各分掌・学年で人間教育に取り組み、着実に成果をあげている。

- 生徒会、学校行事、寮におけるリトル・ティーチャー制により、生徒のリーダーシップを育成する。
 - ・各種行事において、リトル・ティーチャー制を取り入れ、生徒の企画・運営・指導力を発揮させ、生徒の自主活動を推進させることができた。
 - ・寮生活においてもリトル・ティーチャー制を取り入れることで、自立心が育ち、円滑な生活を送ることができた。
- 人間関係づくりや国際交流の活動等を通して、コミュニケーション能力を高め、他者を尊重し協働して問題を解決していく力を育む。
 - ・学校行事や学年行事で、生徒が主体的に活動する場を多く設定し、望ましい集団の育成に努めた。
- 生徒が主体的に取り組むボランティア活動を一層推進する。
 - ・ペットボトルキャップ・プルタブなどの収集ボランティア、歳末たすけあい募金活動・トイレ掃除ボランティアなどに多くの生徒が参加した。今後も多くの生徒が参加できるように、一層の充実を図っていく。
- 留学制度について啓発活動の充実を図り、生徒の参加を促進する。
 - ・海外留学について啓発活動に取り組み、留学を促進した結果、「トビタテ！留学JAPAN」への参加など、留学する生徒が増加した。

(4) 組織としての課題解決力の確立

→ 全教員がリスクマネジメント意識を持てるように今後とも計画的に研修に取り組んでいく。

- 教科研修会、互見授業と教科領域別研究授業等の計画的な実施により、教員全体の教科指導力を一層高める。
 - ・各教科で定期的・計画的に研修会を開催し、教科指導力向上に励んだ。
 - ・互見授業については、今後一層の工夫・充実が求められる。
- 生徒指導、道徳・人権教育、教育相談等の計画的な研修により、いじめや問題行動等への対応を含む教員の指導力の一層の向上を図る。
 - ・計画的に研修を実施した。引き続き教員の指導力の一層の向上を図っていく。

(5) 生徒募集活動の強化による志願者数の増加

→ 志願倍率が1.5倍とわずかに減少したが、強い目的意識と高い学力を持った児童が志願した。

- 本校の教育活動を整理した「飛翔プロジェクト」を推進し、地域や保護者への広報活動の充実を図る。
 - ・「飛翔プロジェクト」を推進し、地域・保護者への広報活動の充実することにより、本校の教育活動の理解が深まった。
- 小学生を対象とした、おいのやまサイエンスセミナー、英会話教室、部活動体験などの取組の充実を図る。
 - ・本校での教育活動体験により本校への関心・興味が一層強まり、強い目的意識と高い学力を持った児童が志願した。

6 次年度への改善策

次年度は、飛翔プロジェクトを円滑に運営することで、地域や大学との連携を一層深めながら「未来社会を生き抜く総合的な人間力」と「高い学力」を培い、世界に飛躍する人材の育成に向けて教育活動の充実に努める。

(1) 確かな学力の保証

- 新大学入試制度に対応した指導の研究を深め実践する。
- 生徒の主体的な学習習慣の確立を図る。
- 世界に飛躍する人材の育成に向けて、英語教育の改善・充実を図る。

(2) 生徒一人ひとりの希望進路の実現

- 生徒が明確な将来像を描けるよう、大学や地元企業と連携した大学ゼミ訪問や企業研究等を円滑に実施する。
- 本校で構築した新たな大学入学者選抜制度への対応を着実に実践していく。

(3) 豊かな心を持ち、グローバル社会を生き抜いていく力を身に付けた生徒の育成

- 生徒会、学校行事、寮におけるリトル・ティーチャー制により、生徒のリーダーシップを育成する。
- 人間関係づくりや国際交流の活動等を通して、コミュニケーション能力を高め、他者を尊重し協働して問題を解決していく力を育む。
- 生徒が主体的に取り組むボランティア活動を一層推進する。
- 留学制度について啓発活動の充実を図り、生徒の参加を促進する。

(4) 組織としての課題解決力の確立

- 教科研修会と一人一研究授業等の計画的な実施により、教員全体の教科指導力を一層高める。
- 生徒指導、道徳・人権教育、教育相談等の計画的な研修により、いじめや問題行動等への対応を含む教員の指導力の一層の向上を図る。

(5) 生徒募集活動の強化による志願者数の増加

- 本校の教育活動を整理した「飛翔プロジェクト」を推進し、地域や保護者への広報活動の充実を図る。
- 小学生を対象とした、おいの山サイエンスセミナー、英会話教室、部活動体験などの取組の充実を図る。